

令和6年度第1回丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会  
会 議 録

- I 開催日時** 令和6年11月27日(水) 午後3時30分～5時00分
- II 開催場所** 京丹後市大宮庁舎4階第2・3会議室
- III 出席者** 橋爪紳也委員長、高岡伸一委員、西山峰広委員、泉真吾氏(秦英正委員代理)、牧紀男委員、岩田信一委員、味田佳子委員  
オブザーバー 吉田理氏、檜秀憲氏、松井敬代氏  
(※高岡委員、西山委員、牧委員、檜オブザーバー、松井オブザーバーはオンライン出席)
- 事務局 中山泰市長、松本明彦教育長、川村義輝教育次長、  
村田雅之課長、岡林峰夫課長補佐、本田咲子主任、奥勇介主任  
村上公太主任
- 欠席者 岸泰子副委員長
- 傍聴人 1人

**IV 次第**

- 1 市長挨拶
- 2 開会
- 3 委員の紹介
- 4 議事
  - (1) 委員長及び副委員長の選出について
  - (2) 丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会について
  - (3) 丹後震災記念館の現状について(現地視察有)  
※ただし、丹後震災記念館の現地視察については非公開
  - (4) 今後の進め方について
- 5 その他
- 6 閉会

**V 議事要旨**

**1 市長挨拶**

<事務局>

ただ今から令和6年度第1回丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会を開催いたします。

開会にあたりまして、京丹後市長中山泰より御挨拶申し上げます。市長よろしくお願ひします。

<市長>

皆さんこんにちは。

今日は、丹後震災記念館の耐震化、それから利活用のあり方を検討いただく委員会ということで、お忙しい中、先生方にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

今日はオンラインでもお集まりいただき、また直接、橋爪先生、さらには秦様の代理で泉様、そして京都府庁からもお越しをいただいております。本当にありがとうございます。

この課題は、直接的には教育委員会の所管なんですけども、広く防災、あるいはまちづくりに深く関わるような課題であります。私の立場からも、この委員会を開催していただきましたこと、またこうして委員に御就任いただいて、御議論くださいますことを心から深い感謝を申し上げたいというふうに思います。

さて、この震災記念館ですけども、御案内通りでございます、今から97年前の北丹後地震、大きな震災でございました。その2年後には、震災の記憶を後世にしっかり伝えようというそのシンボルとして建ててくださったということで、これも2,925名の京丹后市域の犠牲者、そんな大きな震災の記憶をしっかりと伝えていくんだということの中で、全国からまず復興全体に対して多大な篤志をいただいて、その真心の一部をいただきながら、そして当時の技術の粋を集めて、真心と魂を込めて、この記念館ができていたのかなというふうに思っております。

我々の町にとって、かけがえのない第一級の文化資産だというふうに思っております。

一方で、建ててくださってから95年という長い年月が経つわけで、老朽化が進んで使えていないという状況の中にあるわけですけども、ただ一方で、3年後には、震災100年、5年後には建立100年というような節目を迎える、さらには今災害が各地で頻発をして、日頃から防災の意識を高めていくための取り組みが時代背景として求められている、そういうような時代の中であって、我々としてこの震災記念館を是非とも復活させていきたいというふうに思っております。

耐震化、それと利活用のあり方を、困難な中だと思うんですけども、真剣に探っていきたいなというふうに思っておるわけでございます。

防災の大切さ、そしてこの震災、これを伝えていく、この機能をしっかりと軸にしながら、同時に日頃から内外の皆さんがこの施設に集ってくださって、そしてそこから活力が育まれるような、いわばサードプレイスとしての機能もあわせ持つような施設として生まれ変わって復活をしていくというようなことをめがけながら、御検討くださいましたらありがたいなというふうに思っております。

このためには、耐震の技術を初めとして専門的ないろんな分野からの検討を寄せていくということが欠かせないわけございまして、そんなことを通じまして、この震災記念館が意義ある形でまた日頃から集まっていたいただけるような、そういう形

で復活をしていく、そのための是非道筋をつけていきたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。お世話になります、どうぞよろしく願いいたします。

<事務局>

市長ありがとうございました。

なお、市長は公務の都合により、ここで大変失礼させていただきます。

## 2 開会

<事務局>

改めまして、ただ今から、令和6年度第1回丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会を開会いたします。

この度は本検討委員会の実施に関わりまして、委員への御就任、またオブザーバーとしての御参画を御快諾いただきまして、重ねて御礼を申し上げます。ありがとうございます。

まず、本日の資料の確認をさせていただきます。事前にお送りをさせていただいた資料1から6と、参考資料1部が手元にあるか御確認をよろしく願いいたします。不足がある場合は、事務局の方におっしゃっていただければと思います。よろしく願いいたします。

なお、本日はテレビ画面を設けておりますが、Zoomを併用しています。委員の方から西山委員、牧委員、高岡委員、オブザーバーの松井様、檜様はZoomで御参加いただいておりますので御了承ください。また岸委員からは欠席の連絡をいただいております。

それでは、お手元の会議次第により進行させていただきます。

本日は第1回目の会議となりますので、本来であれば委員の皆様全員に委嘱状を直接お渡しするべきところではございますが、今回は机上配付にて委嘱状を交付いたしておりますので、御理解のほどよろしく願いいたします。

## 3 委員の紹介〔資料1〕

<事務局>

今回、委員として8名、オブザーバーとして3名の方をお願いをしました。

資料1に名簿を準備しています。本来であれば、委員の皆様から自己紹介をいただきたいところですが、本日は会議時間の都合上、大変失礼ですが事務局より1人ずつ御紹介をさせていただくにとどめさせていただきます。申し訳ございません。御承知ください。

(事務局より委員紹介)

#### 4 議事

##### (1) 委員長及び副委員長の選出について[資料2]

<事務局>

続きまして、3番目の議事、委員長・副委員長の選出を行います。

資料2を御覧ください。こちらは本検討委員会の設置要綱になります。第5条の規定に、「第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。」第2項に「委員長及び副委員長は、委員の互選により決定する。」とあります。特に御意見がなければ、事務局から御提案をさせていただきたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

(一同異議なし)

ありがとうございます。

それでは事務局といたしましては、委員長に大阪公立大学の橋爪委員、副委員長に京都府立大学の岸委員をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ご賛同いただける方は拍手をお願いいたします。

(一同拍手)

ありがとうございます。それでは、橋爪委員長は委員長席へお願いできたらと思います。

(席移動)

それでは、ここで橋爪委員長に一言御挨拶をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。よろしく申し上げます。

<委員長>

皆さんこんにちは。

委員長を拝命いたしました橋爪でございます。よろしく申し上げます。

建築に関しましては、全国各地で文化財建物の利活用等々の仕事も長くしておりますが、また京丹後市もいろんなゆかりがございます。話すと1時間くらいかかるので、今日はやめておきますけども、長い御縁がございます。

本件、市長ともお話をした経緯がございます。兵庫県の、来年の万博関連のアドバイザーを務めております。兵庫県では来年度が阪神淡路大震災から30年の節目であり、また北但馬の城崎と豊岡が壊滅した地震から来年で100年になります。北

但馬の地震などを調べておりますと、実は久美浜がかなりやられたのが北但馬の地震であったということです。

当初の震災発生後の朝日新聞だったと思いますが、資料とか見ると、但馬丹後震災みたいな書き方をしていたときもございます。それは、もうその2年後に、丹後の方の大きな地震が起こりまして、向こうの方は北但馬、こちらは北丹後というふうな言われ方をして分けられてますけども、一連の2箇年置いた地震で、京丹後市の中が2回、激甚災害を受けたというふうなことを思い至りまして、2025年から2027年にかけて100年の節目を迎えるというところを、もっと意識するべきではないかということをお願いしました。

私の母方の出身が能登半島の珠洲でありまして、昨日も地震があつて、ひい爺さん・ひい婆さんの墓とか、まだ正月の地震のあと見に行けてないんですけど、どうも日本海側で近いところで地震が続いていて、非常に南海トラフだけではなくて、直下型の断層が起こるような地震について、もっと我々は警戒すべきということを変更して意識をしていくというのが今年でありました。

今回の丹後震災記念館、まさに震災後に多くの方、全国から志のある支援をいただいて、それによって建てられたもので、次の世代に震災に対する備えを意識してもらおうということを考えながら単なる耐震の補強の話ではなくて、そもそもは震災記念館の耐震性がないということ自体が多くの方から見るとおかしいので、震災の記憶を次の時代につなげるとともに、来るべき次の大きな災害に備えるような施設として再生するべきちょうど節目であろうというふうに思います。

あとは京丹後市内いろんなところに、震災のことを忘れるなという碑とか、そこで亡くなられた方々への思いを追悼する碑が各所にございます。そういうものをもう一度再評価をして、次の世代に渡すということが重要だろうというふうに思っております。

是非いろんなお知恵とか、いろんな提案とかをいただきながら、この事業をうまく進めて参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

<事務局>

はい、ありがとうございました。

引き続き次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。これ以降の進行につきましては委員長にお願いできたらと思います。橋爪委員長、よろしくお願いいたします。

## (2) 丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会について[資料3・参考資料]

<委員長>

はい。本日は概ね 17 時までを予定していると聞いております。円滑な議事の進行に御協力お願いいたします。では次第に従いまして、進めて参ります。(2) 丹後震災記念館耐震化・利活用検討委員会について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局より資料説明)

<委員長>

はい。ありがとうございます。

ただ今の説明につきまして、何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

リモートの方もどうでしょうか。

<委員>

こういう検討もすればという御意見を申し上げてよろしいですかね。

<委員長>

どうぞ、お願いいたします。

<委員>

大変重要なことだと思います。今回のこの震災記念館の耐震化を進めていく上で、大変重要なのは、単体でやるというより、先ほど橋爪委員長からのお話もございました城崎がやられた北但馬地震、それからそのあと今度は鳥取地震が起きて、最終的に南海トラフ地震に至るといふ、そういう南海トラフ地震の前に地震活動が活発化するといふ中、前のルートでの一連の地震だといふことが防災対策という上では大変重要なことといふふうに思っております。先ほどの(郷村)断層も含めて、何か他の地震との連携みたいなことで整備がされると、順番にツアーのように回っていくみたいな形でやるというのがすごくいいのかなと思います。お金も大変だと思うんですけども、是非次の南海トラフ地震に向けた防災対策という位置付けでやっていけばいいのかなと思います。

あともう少し仲間を増やすとすると、先ほどの北但馬・鳥取に、東南海地震と南海地震の間に三河地震というのが起きて、最後、福井地震で、福井はこの前 70 周年をやられたと思いますけど、単体の整備ではなくて、他とうまく連携して他も巻き込みながら、その取り組みを進めていくというのがいいのかなあというふうに思いました。

2 つ目は、先ほど中に入れないということで、100 周年のときには残念ながら整備が終わらないと思いますので、100 周年ときに入れなくてもいいですけど、何か点群の 3D データみたいなやつがあって、とりあえずバーチャルでも中に入れたりする

とすごくいいのかなあというふうに思いました、というのが検討内容を含めての思い付いた点です。以上です。

<委員長>

はい。ありがとうございました。

日本海側は、鳥取までいきますとジオパークで横連携していますので、こういう災害、断層が多いところだからというのもあって、ジオパークのような地形もあるのかなと思いますので、いろいろ見て回っていただけるような連携ができればと思います。

他いかがでしょうか。

<オブザーバー>

北但馬地震からちょうど来年 100 年なんですけれども、5 月 23 日には城崎で、それから 5 月 24 と 25 は豊岡でイベントをしようとしています。

ですので、それに参加していただくことも可能ですので、詳細決まりましたら御案内差し上げたいと思います。

久美浜は 2 回の地震でかなりのダメージになっていますし、そのあたりでも参考になるのではないかなというふうに思います。以上です。

<委員長>

はい。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

どのような活用とか考えるのと同時に、ファイナンスといえますか、費用と財源を考えていくということも、同時にこの場でも御意見いただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

大阪の登録文化財建物のクラウドファンディングで千二百・三百万は 2 ヶ月ほどで集まるんですけども、全体で数億かかる工事のごく一部の着手の部分だけ緊急的な処置で、コアな文化財的な建物の修理に関しましては、多くの方が善意をしてくれる事例が各地あると思いますので、是非、我々も広くアピールしながら、多くの方の協力を得ながら、進めていければと思っております。

何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

### (3) 丹後震災記念館の現状について（現地視察有） [資料 4・5]

<委員長>

それでは、本件以上とさせていただきます。次に（3）丹後震災記念館の現状について説明をお願いいたします。このあとすぐ現地視察ということで、リモートの先生方はどうなるのでしょうか。

<事務局>

リモートは、これで一旦閉じていただいて、こっちに戻ってくるのがおそらく4時50分前後になるかと思います。最後、今後の委員会の進め方、スケジュールの方も説明させていただきますので、4時50分ぐらいにまたZoomに入室いただければと思います。

それから、Zoom参加や欠席で今日現地を見ていただけない方がたくさんいらっしゃいますので、Zoom参加・欠席の方に関しましては、改めて現地を見ていただく日程を設けさせていただきたいというふうに考えています。また日程調整をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

そうしましたら、この後、現地に移動しますが、公用車乗り合わせで2台に分かれて乗って移動します。

資料が、資料4は丹後震災記念館について、それから資料5は耐震診断調査報告書の概要の部分をつけております。この2枚を現地に持っていただきましたら、現地でこれも見ながら、記念館を見ていただけるとお願ひしますので、どうぞよろしくお願ひします。

(現地視察(非公開))

#### (4) 今後の進め方について [資料6]

<事務局>

それでは、委員長、次の議事をよろしくお願ひします。

<委員長>

はい。では、次に(4)今後の進め方についてでございます。説明をお願いいたします。

(事務局より資料説明)

<委員長>

ただ今の件、何か御質問ありますでしょうか。

<委員>

見学させていただく際、内部は入れるのでしょうか。

<事務局>

入っていただきます。

<委員>

はい。わかりました。

<委員長>

ほか、いかがでしょうか。

峰山小学校の建物も見ることにはできるのでしょうか。

同じ設計者の建物が、すぐ近くに、ほぼ同時期で同じ年の建物がもう1棟あるので、よく見てもらったほうがいいのかと思います。

<事務局>

峰山小学校の建物は、今は管理棟として使っていますので中には人がいませんが、小学校がありますのでそちらと調整をさせていただいて、またお答えさせていただきます。

<委員長>

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

## 5 その他

<委員長>

それでは続いて5 その他案件でございますが、何かございますでしょうか。

<事務局>

5については、特に何もございませんので、よろしく申し上げます。

<委員長>

それでは、本日予定の議事すべて終了いたしました。進行をお返しいたします。

## 6 閉会

<事務局>

はい。橋爪委員長ありがとうございました。

事務局の方から1点だけお詫びと訂正をさせていただきたいです。

委員の皆様方を御紹介させていただきましたときに、本日お世話になっておりますオブザーバーの方の御紹介を失念しておりました。大変申し訳ありませんでした。

資料1を御覧いただきますと、委員の方のお名前の下にオブザーバーということで、お三方紹介をさせていただいております。

(事務局よりオブザーバー紹介)

<事務局>

そうしましたら、本日これですべての次第終了となりますので、大変駆け足になってしまいましたけれども、委員の皆様どうもありがとうございました。

閉会にあたりまして。本日岸副委員長が御欠席ですので、事務局から代わりに村田雅之文化財保存活用課長が御挨拶申し上げたいと思います。

<課長>

皆様、改めまして本日はどうもありがとうございました。

3時半からの会議ということで、今もうすっかり外は真っ暗になってしまいましたが、本日は5回予定してます検討委員会の中でも、一番最初ということもありまして、丹後震災記念館の現状把握ということをお願いするということで、外に出ていただいて、現地を見ていただいたということがございました。

ただ、先ほども紹介がありましたように時間の都合ということがございましたので、何とかまた皆様にもじっくり見ていただく機会を作りながら、この検討委員会を進めていけたらと、事務局考えておりますので、委員の皆様方、オブザーバーの皆様方とも今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。